

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日, 令和6年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022...

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 所在地, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 訪問調査日, 令和6年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度はコロナ禍の影響で外出や地域との交流があまり出来なかったが、コロナも5類になり以前ほどでは無いが、近隣の道の駅(マオイの丘・恵庭道の駅花ロード)に野菜を買いに行ったり、さくら見学に寒地土木研究所や小川公園、36号線桜並木に行ったり、時間のある限りドライブも行った。又、行事計画の一環で、誕生日に入居者の希望で回転寿司にいたり、夏には近隣住民やボランティアも参加し火花大会をホームで行った。クリスマスイルミネーション見学&外食や地域の高齢者交流会の参加、地域住民・家族・職員入居者で忘年会を行い昼食とビンゴゲームを楽しまれた。今後も出来る限り入居者様一人一人の希望が実現出来るように支援して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はバス停から3分程で、商業施設や区役所、飲食店等が立ち並ぶ国道に近く利便性の高い住宅街に位置している。開設して以来、地域との関係作りを重視して培ってきた歴史があり、地域や事業所の行事には利用者を含めて互いに積極的に参加し、近隣での買い物や散歩時でも住民や子供達と触れ合っている。運営推進会議や防災訓練等には町内会の役員始め多くの住民の協力を得るなど着実に応援団を増やし、災害時には事業所を避難場所として提案するなど相互扶助の関係を構築している。1ユニット9人の小規模の暮らしの中で、利用者に寄り添い、職員の介護技術と経験によりニーズや課題をきめ細かに検討し本人らしく生きることの支援に取り組み、生活場面で調理など含めた家事の役割や各種体操、ゲーム、趣味、ドライブなど日々の活動ではスキンシップや快刺激を取り入れて利用者の自信や満足に繋げるケアに努めている。日常の食事におやつ、の桜餅やケーキなども皆で一緒に作り出来上がり好評で、コロナ禍の5類移行後は行事食に外食や出前、テイクアウトも取り入れ味わい豊かな食卓となっている。利用者が下着の感覚を忘れないように衛生用品の使用を極力抑え、自尊心を大切に排せの自立を支え、終末期を迎える利用者が安全、安心の下に過ごせるよう医療連携を整えるなど、理念にある常に利用者の立場に立ったサービス提供に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念・ケア理念が常に目につきやすいように玄関・リビング・スタッフルーム・掲示し日常業務やサービス計画に活かせるように取り組んでいる。	運営理念とケア理念は事業所内の要所に掲示され、新人研修時でも理念を説明し理解を促している。理念は設立以来の地道な取り組みの中で職員に定着し実践されており事業所が目指す、楽しく、安心して、安全に暮らせる支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も5類となり地域の行事に参加したりホームの行事にお誘いしたり交流を図っている。	コロナ禍の5類移行後は町内のふれあい交流会に参加している。事業所の花火大会には近所の子供達や職員の家族も加わり、忘年会には住民の参加を得るなど、平常の対面交流が取り戻しつつある。今年は町内会班長を担い、地域に根付き信頼を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で介護事業所の役割と共に認知症を理解や支援方法なども説明した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ごとに入居者情報や取り組みを報告し意見や要望を頂いている	今年度は対面での通常開催となり、包括支援センター、町内会役員、民生委員、家族、利用者等の多くの参加を得て2か月ごとに実施している。運営状況や利用者状況、災害対策等を報告し、質疑応答が活発に行われ、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや文章などで連絡を取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在はメールやFAX、電話連絡がほとんどであるが、担当課とは課題、案件に応じて相談し、情報や知識の共有を図り、指導を仰ぐなど協働関係を築いている。介護認定調査等の訪問では利用者の生活の実情を伝え、助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催し、指定基準の禁止行為の再確認や拘束をしないケアなどについて話し合っている。	指針を基に、身体拘束適正化委員会と勉強会を3か月ごとに実施し、人権を守ることがケアの基本と認識し、拘束を行わない姿勢を全職員で確認している。OJT成長チェックリストや自己点検チェックシートを活用し、自身のケアを振り返っている。リスクに関して家族と話し合い、玄関は防犯上、夜間施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回研修を行い虐待行為をしないよう意識して介護にあたるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会やミーティングで必要に応じて理解し活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書・運営規定など読み合わせ疑問点など尋ね、理解・納得頂けるように説明し、安心して入居できるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見要望を記録するとともに家族と職員の連絡ノートを活用している。	利用者の要望に応じて、買い物やドライブに出かけている。家族には常に担当職員から電話で状況報告を行い、来訪時は職員との連絡ノートで家族の思いを汲み取り、事業所の対応等を記録して、理解や情報の共有に努めている。さくら通信を毎月発行し、暮らしぶりを伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回個別面談と都度、意見や提案を聞く機会を設けている。	代表者と職員は近い存在で話し易い関係を築いており、相談事等に応じたり、都度の面談や朝の申し送り時でも意見や情報を取り入れ調整を図っている。OJT成長チェックリストを活用し、自身の目標を掲げ、年4回の自己評価の取り組みも個々の省察となり今後活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や労働環境・条件を整備し働きやすい職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や職員一人一人のケアの力量に合わせ説明や実技を学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で会って話したり勉強会の実施は無かったが電話やメールで情報交換はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様と一緒にホームの見学や入居者様と会って頂く。又、入居にあたり、本人の様子やご家族様の意向をお聞きして介護計画書に反映し、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や困りごとは聞き取り、日々の様子をお伝えしながらスムーズな関係作りを行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の説明で、どんなサービスがあるのか、サービス利用の対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何を希望しているのか、何をしたいのかを本人の視点で考えながら出来ることを続けて頂き、又、人生の先輩から学ぶことで互いに支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子をお伝えして本人とご家族様の仲立ちを行いつつ、ご家族様からの要望も傾聴して、職員と一緒に本人を支えられるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスが収まりつつあり、少しずつ元の状態に戻るように対応中である。	コロナ禍の5類移行後は、家族、親族、友人などの面会を受けている。家族の協力の下に、正月は自宅への外出、外泊、墓参りなどで馴染みの人や場所との関係を継続している。電話や手紙の取次ぎも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で、利用者同士が関わりを増やして互いを理解して支え合えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子や相談等必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ禍で思うように外出支援が限られる中、ドライブ・散歩等の希望を取り入れて対応している。	多くの利用者が言葉で思いや希望を表すことができ、職員は関わりや日常の様子から気になることがあれば、本人の思いを引き出せるような声掛けに努め、望んでいることや不快なこと、本人の変化を捉え、現状の把握に努めている。困難な場合は、表情や仕草から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活状況、馴染みの暮らしは、本人やご家族様から情報を頂き、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティング時やカンファレンスでの話し合いから本人の状態の情報を共有して現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様・本人・職員の意見をもとにモニタリング・アセスメントを行い、ケアプラン原案を作成して、会議で話し合いを行い、現状に沿った介護計画を作成している。	介護計画は担当職員によるモニタリング評価を基に介護支援専門員と共に原案を作成し、カンファレンスで協議している。本人、家族の意向を確認し、より良く暮らせるための現状に即した介護計画を3か月ごとに策定している。緊急時は随時、見直しをかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の内容を朝のミーティングで職員間で共有し、日々のケアを実践している。職員間で情報の共有を行い、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族様の希望や要望を受け止めて、楽しめるように、喜んで頂けるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でなかなか地域活動ができなかったが運営推進会議や町内会の行事参加や花火大会で関わりが少し増えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけの医療往診・定期的な歯科往診を行っている。又、必要時は適切な医療の受診も受けられるように支援している。	現在、全員が協力医療機関による月2回の往診と、歯科は、6か月ごとの定期検診及び必要時の往診を受けている。月4回、訪問看護師が健康管理に訪れ、専門他科への通院は基本家族対応となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、月1回の体重測定、日々の排便・体調・生活状況を訪問看護師に伝え、相談を行っている。看護師からの指示でご家族様、主治医へ連絡している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院へ主治医からとホームからの情報提供書を作成して情報交換や相談を行い、早期に退院出来るように努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居説明時に重度化や看取り対応の説明を行っている。終末期に於いては、本人・ご家族様・医師と話し合いの場を設け、十分に説明を行い方針を共有してチームで支援できるように取り組んでいる。	入居時に利用者の重度化や看取り介護に関わる指針を説明し同意を得ている。状態変化時には医師の所見を基に、家族、職員を交え話し合い、看取り希望時は改めて同意書を交わしている。事業所は既に看取りを経験しており、マニュアルを基本としたチームケアの態勢で臨み、現在、終末期の利用者の支援に尽力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故・救急時のマニュアルを確認している。救急時の対応訓練研修などに参加して対応できるよう取り組んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・防災担当を決めて災害マニュアルの習得・点検を行っている。地域との協力体制を築けるように努めている。	今年度は地震及び夜間想定火災避難訓練を2回、初期消火訓練等を自主訓練で実施し、水害時の図上訓練も行っている。地域との協力体制や備蓄品の確保、事業継続計画は策定中である。	入浴時やトイレでの排泄時、居室での介助時など、様々な場面を想定したシミュレーション訓練の実施を期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭に置きながら言葉掛けに注意している。個人のプライバシーに配慮して対応を行っている。	身体拘束適正化委員会での勉強会で学び、利用者一人ひとりの誇りを尊重し、言葉かけ時の語尾や語調に注意を払っている。利用者との関わりを通して、本人を傷つけない所作や話し進め方など理解を深めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、本人の言葉・行動から本人の思いや要望が表しやすい対応を心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活リズムで本人の希望に沿った毎日を送れるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに沿った身だしなみやおしゃれを楽しめるように声掛けしながら支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備を行ったり、料理や盛り付けに参加して食事が楽しみになるように支援している。又、食欲がない時や苦手なものなどは個別に提供したり臨機応変に対応している。	日常食は、手元の食材で利用者の嗜好や栄養面を考慮し献立を工夫し、利用者と一緒に準備している。時には畑の野菜も加わり旬を味わっている。行事食や誕生会、おやつは手作りを基本としているが、要望に応じて外食、出前、テイクアウトなど変化を楽しみ、食への満足感を高めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表で確認し、食事量、栄養バランス、水分量の過不足がないかを観察しながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ本人に口腔ケアを行なって頂き、不足している所や仕上げ確認は職員が行っている。個別に口腔指導も活用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握して、タイミングをみてのトイレ誘導や、声掛けを行い排泄の失敗が少なくなるように支援している。	プライバシーに配慮しながら布下着の着用とトイレ排泄を基本とし、利用者により自立動作を促すなど、職員の努力で衛生用品の使用は必要最低限となっている。利用者個々の排泄のアセスメントや介助を丁寧に行うことで、生きる意欲や自信に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表から排便リズムを把握して便秘薬の調整を行っている。便秘予防に、体操・運動と食物繊維や水分摂取等を工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って楽しく入浴できるように、声掛けしながら準備や時間を決めて支援している	利用者にタオルや下着などの準備を促し、入浴への気持ちに繋げている。週2回以上を基本に、無理強いせず、現在は全員が湯船に浸かり入浴の心地よさを体感してもらい、介助は出来ない部分を支援している。利用者の心に触れ会話が弾み職員は思いの把握に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの就寝時間、起床時間に合わせて入床、起床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示を職員全員が把握できるように連絡ノートや申し送りで確認して服薬を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の今までの生活歴から好きなこと、得意なことを見つけて役割を持って頂き、楽しく生活が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスが落ち着いてきているため、ドライブ・散歩の回数が増えてきている。地域の人々との関わりも増やしていけるように努めている。	コロナ禍の5類移行後は、近隣の商業施設や道の駅での買い物、桜見学のドライブを楽しみ、地域行事のふれあい交流会への参加、誕生会の外食、正月の自宅外泊、墓参りなど、地域や家族との交流の機会が増え、利用者は外気に触れ、気分転換や五感の刺激を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の管理をされている方の買い物は希望を聞いてスタッフが購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話使用希望は、ホームの電話を使用して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで皆さんが心地よく過ごせるように季節やその月の行事の装飾を行い居心地よく過ごせるようにしている。又、温度や空調管理や空気清浄機で感染症対策も行っている。	30畳の広さがあるリビングには食卓テーブルやソファを配置し、キッチン是对面式で居間全体が見渡せて、食事や娯楽までも共有できる家庭的な造りになっている。居間を囲むように各居室を配置し、死角が無く利用者の出入りなど行動変化に気づき易い環境である。窓からの日差しも明るく、壁には季節の飾りを施し、温湿度や換気にも配慮した、安らぎのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にもソファ席やカウンター席・居室付近の椅子など好きな場所で過ごせるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具やタンス等の本人が安心できる物や本人が使用していた食器等を持ってきて使って頂いている。	居室にはクローゼット、物干しポール、カーテン、暖房機、換気扇を備えている。家族と相談しながら生活調度品や家族写真、遺影、趣味のぬいぐるみや裁縫道具など持ち込み、行動に支障をきたさないように配置して、安心な環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の部屋の入口に、名前・花のイラストで部屋を解るように工夫している。各居室には自分で洗濯を出来るように洗濯物干しを設置している。トイレは、トイレマークで解りやすく工夫している。		